

Lesson15

助動詞/できるかもしれない！

I may be able to do it.

助動詞は**動詞**に意味を足す単語です。**助動詞**の意味を取り違えてしまうとまったく異なる意味になってしまうこともあるので注意が必要です。**I may be able to do it.**「できるかもしれない！」は**助動詞 may**を使った表現です。

このレッスンを受講することで**助動詞**について理解できます。

Topics

助動詞/ I may be able to do it.

Topic1 可能・能力

- can

Topic2 許可

- may
- can

Topic3 推量・可能性

- may
- can
- must
- will

Topic4 義務・必要性

- must, should, need

Topic5 意思

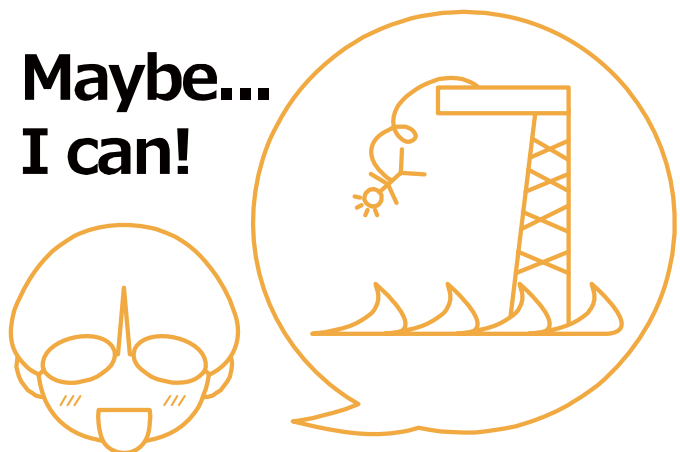
- will

Topic6 助動詞の注意点

- 助動詞 + have + 過去分詞
- 助動詞 + 助動詞は不可

Wrap-up

Maybe...
I can!



DVD 版では練習問題の解説も行います。

■ Topic1

可能・能力

可能・能力を意味することができる**助動詞**には **can** があります。

● can 「～できる、～しようと思えばできる」

John can snowboard. 「ジョンはスノーボードができます。」(能力)

I can work overtime today. 「私は今日残業できます。」

can 「～しようと思えばできる」(可能)の意味で使っています。

He could already speak five languages when he was five.

「彼は5歳の時、既に5カ国語を話せました。」

過去形にすると過去の能力について表現します。「～することができた」(過去の能力)

注意 : **can** は **be able to** 「～する能力がある」で言い換えることも可能です。**be able to** の **be** 動詞は主語にあわせ変化します。

He is able to win the game. 「彼はその試合に勝つ能力がある。」

ここでは、主語が **he** なので **is** になっています。

注意 : **can** と **be able to** の違い

be able to は助動詞ではありませんので、**be** 動詞は**人称変化**をします。また、**be able to** には能力・可能の意味しかありませんが、**can** には能力、推量、可能性などの意味があります。

■ Topic2

許可

許可の意味に使うことができる**助動詞**は **may, can** があります。

● may 「～できる、～しても差し支えない」

May I see your driver's license? 「免許証を見せていただけますか？」

You may use the phone. 「電話使っても良いです。」

相手に**許可**を与える表現です。

You may not make personal phone calls at work.

「職場で個人的な電話をしてはいけません。」

否定文は**禁止**の意味になります。

● can 「～しても良い」

You can go now. 「もう帰ってもいいですよ。」

Can I use this phone? 「この電話を使っても良いですか？」

can 「～しても良い」

Could I use this phone? 「この電話を使ってもよろしいですか？」

could 「～しても良い」

注意 : **could** を使い**許可**を求めると、より**丁寧**になります。

注意 : **can** と **may** の違いについて

職場で誰かに「帰って良いよ。」などと言う場合、**You can go now.** と **You may go now.** の2つの表現が可能です。でも、これらは印象が異なるので注意が必要です。

can 「～しても良い」も **may** 「～しても差し支えない」も**許可**の意味になりますが、印象としては **can** を使う方が親切な印象になることが多いです。というのは、**can** は可能ならしても良いという意味になるのに対し **may** は話し手が許可するということにポイントがあるので、やや固い印象になるためです。

■ Topic3

推量・可能性

推量・可能性の意味に使うことができる**助動詞**は **may, can, must, should, will** などがあります。

● may 「～かもしれない」

may はひかえめな**推量**の意味になります。**might** にするともっとひかえめな**推量**になります。

There may be a Japanese restaurant around here.

「このあたりに日本食レストランがあるかもしれません。」

There might be a Japanese restaurant around here.

「このあたりに日本食レストランがあるかもしれません。」

might 「～かもしれない」は **may** よりも可能性が低く聞こえます。

● can 「～することがある、～であり得る」

can は一般的に起こることもあり得るという状況で使います。**could** と過去形にすると **can** よりも弱い**推量**になります。

Carelessness can cause trouble. 「不注意さは問題を引き起こす可能性があります。」

Carelessness could cause trouble. 「不注意さは問題を引き起こす可能性があった。」

または「不注意さは問題を引き起こす可能性があるかもしれない。」

注意： can「～することがある、～であり得る」の意味を弱めたいときに **could** を使います。また、**could** は「～する可能性があった、～する可能性があるかもしれない」のように**過去の推量**と**現在の推量**の2通りに解釈することが可能です。どちらの意味になるかは前後の流れの中で判断します。

● **must** 「～に違いない」、**should** 「～のはずである」

must と **should** は強い**推量**の意味になります。

That man must be Mr. Thompson. 「あの男性はトンプソンさんに違いありません。」

注意： **must** + 状態動詞の時は「～に違いない」(推量)の意味になります。

注意： **must** 「～にちがいない」の否定文には **cannot** を使います。そのため、上の否定文は

That man cannot be Mr. Thompson.

「あの男性がトンプソンさんであるはずがない。」とします。

Your plan should work. 「あなたの計画はうまく行くはずですよ。」

● **will** 「～でしょう」

will は**未来**のことについての強い**推量**を意味するのに使います。

It will probably rain this afternoon. 「今日の午後多分雨でしょう。」

Something nice will happen tomorrow. 「明日は何か良いことが起こるでしょう。」

■ Topic4

義務・必要性

義務・必要性を意味することができる**助動詞**は **must, should, need** などです。**肯定文**の時は意味に大きな違いはありませんが、**否定文**では**意味が異なる**ものがあるので注意してください。また、**過去形**にする際にも**注意点**があります。

● **must** 「～しなくてはならない」、**should** 「～するほうが良い」、**need** 「する必要がある」

must, need は「～しなくてはならない」「～する必要がある」の意味ですが、**should** はこれらに比べると少し弱い印象です。

I must hand in the report by tomorrow.

「私は明日までにその報告書を提出しなくてはなりません。」

注意： **must** は **have to** 「～しなくてはならない」で言い換えることができます。**have to** は助動詞ではありませんので、**have** は**人称変化**をします。

He has to work hard to complete the project.

「彼はプロジェクトを完成させるために一生懸命働かなくてはなりません。」

You should get your hair cut. 「あなたは散髪するほうが良いです。」

Need I tell you more about her? 「彼女についてもっとお話する必要がありますか?」

・過去の義務

must, should で過去の義務（過去に何かをしなくてはならなかった）について述べることはできません。「(過去に) 何かしなくてはならなかった」としたい場合は **had to** を使います。

We had to work until midnight. 「私達は深夜まで働かなくてはならなかった。」

had to 「～しなくてはならなかった」は過去の義務・必要性の意味になっています。

・need の用法

need（助動詞）は主に**否定文**と**疑問文**で使われます。**need**（助動詞）には過去形がないため、過去のことを言いたい場合は一般動詞の **need** を使って **needed to** ～の形にします。**I needed to talk with Mr. Rode.** 「私はロードさんと話す必要がありました。」のように使うことができます。

・must, should, need の否定文

義務の助動詞の否定	意味
must not	～してはいけない
should not	～しないほうがよい
need not (=do not have to)	～する必要はない

You must not tell anyone about our plan.

「あなたは私達の計画について誰にも話してはならない。」

must not 「～してはならない」という禁止の意味になります。

You should not clean the room. 「あなたはその部屋を掃除しないほうが良いです。」

should not 「～しないほうがよい」

You needn't work overtime tomorrow. 「あなたは明日残業する必要はありません。」

You don't have to wait for me. 「あなたは私のことを待っていなくても良いです。」

do not have to ～ 「～する必要がない、～しなくても良い」という意味です。

■ Topic5

意思

意思の意味になる**助動詞**は **will** です。**意志未来**として**未来形**の表現とされています。

●will 「～するつもりである」

I will call you tomorrow. 「私はあなたに明日電話するつもりです。」

I will email you later. 「後でメールします。」

■ Topic6

助動詞の注意点

助動詞の後ろに**完了形**をつけることはできますが、**助動詞**の後ろに**助動詞**をつけることはできません。

●助動詞 + have + 過去分詞

"助動詞 + **have** + 過去分詞"という形は過去の事について現在思っていることを表現するのに使います。

I may have come here before. 「私は以前にここに来たことがあるかもしれない。」

I have come here before. 「私はここに以前来たことがある」に **may** 「～かもしれない」がついています。

You must have met him before. 「あなたは彼に以前会ったことがあるに違いない。」

You have met him before. 「あなたは彼に会ったことがある。」に **must** 「～に違いない」がついています。

She should have left before noon. 「彼女は昼前に出発しておくべきだった。」

She has left before noon. 「彼女は昼前に出発した」に **should** 「～すべきです」がついています。

注意 : このように"助動詞 + **have** + 過去分詞"では過去の事について現在思っている推測や後悔を表現します。

●助動詞+助動詞は不可

助動詞のうしろに助動詞をつけたい場合の注意点について説明します。助動詞を2つ一緒につなげることはできませんが、助動詞ではない **be able to** や **have to** などは助動詞の後ろにつけることができます。ただし、同じような意味の助動詞にはつけられません。

・「～できるかもしれない」

✕ **may** 「～かもしれない」 + **can** 「～できる」

○ **may** 「～かもしれない」 + **be able to** 「～できる」

We may be able to reserve a single room.

「シングルルームの予約を取ることができるかもしれません。」

「～できるかもしれない」の意味には **may be able to** ～を使います。

・「～できるでしょう」

✕ **will** 「～でしょう」 + **can** 「～できる」

○ **will** 「～でしょう」 + **be able to** 「～できる」

You will be able to pass the exam. 「あなたは試験に合格することができるでしょう。」

will be able to ～ 「～できるでしょう」

・「～しなければならないかもしれない」

✕ **may** 「～かもしれない」 + **must** 「～しなければならない」

✕ **may** 「～かもしれない」 + **should** 「～するほうが良い」

○ **may** 「～かもしれない」 + **have to** 「～しなければならない」

We may have to wait longer. 「私達はもっと長い間待たなくてはならないかもしれません。」

may have to ～ 「～できるでしょう」

注意：同じような意味の助動詞につけて使うことはできません。

✕ **can** 「～できる」 + **be able to** 「～できる」

✕ **must** 「～しなければならない」 + **have to** 「～しなければならない」

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



例題 : All bids must _____ submitted by noon tomorrow.

- a. be
- b. been
- c. being
- d. are

must (助動詞) の後ろなので動詞の原形にするという問題です。ですから、**a. be** (**be** 動詞の原形) が答えになります。**b. been** (過去分詞)、**c. being** (ing 形)、**d. are** (**be** 動詞の 1 人称複数、2 人称単数・複数、3 人称複数の現在形) は動詞の原形ではないので入れることはできません。基本的な文法ポイントですが、TOEIC(R)Test にも出題されることがあります。もし出題された場合はあまり時間をかけすぎないように注意してください。

All bids must be submitted by noon tomorrow.

「全ての入札は明日の正午までに提出しなければなりません。」

微妙な気持ちを表現する have to

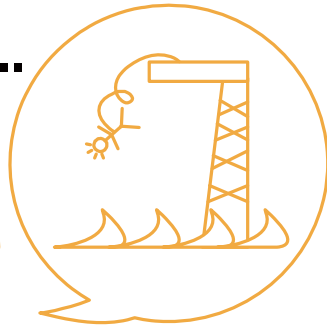
歌の中で **have to** がどのように使われているのか調べてみました。かなり古い歌ですが **Dusty Springfield** の **You don't have to say you love me.** というとても有名な歌があります。**You don't have to say you love me, just be close at hand.** 「愛しているなんて言わなくてもいいから、そばにいて」というフレーズは **have to** の否定形を「~しなくてもいいからね」という意味で使い、切ない気持ちを表現しています。**ABBA** の **Why did it have to be me?** では「なぜボクなの?」のように控えめな気持ちを表現しています。これはもちろん否定文や疑問文だったためでもあります。これらの歌詞を **must** に変えて、例えば **You must not say you love me.** 「あなたは私を愛していると言ってははいけません。」などとすると感じがとてもかわってしまいます。また、松任谷由実の「守ってあげたい」に出てくる **You don't have to worry.** 「心配しなくてもいいからね。」では相手に対する思いやりを表現しています。でも、私が **You don't have to study so hard.** 「そんなに一生懸命勉強しなくてもいいからね。」と言ったとしたら、これは思いやりの気持ちを表現することも可能ですが、状況によっては皮肉にもなります。どんな表現もこの意味にしかならないと決めつけることはできません。状況の中で理解することが大切です。

コーヒーブレーク (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- 助動詞の後ろは動詞の原形。
- may + can** = 「できるかもしれない」は **may be able to** とする。
- 似た意味の助動詞でも使い方が異なることがある。

Maybe...
I can!



I may be able to do it.
「できるかもしれない！」

主語 代名詞

I
「私は」

述語動詞

助動詞 + 助動詞 + 動詞

may be able to do
「できるかもしれない」

目的語

代名詞

it
「それを」

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. The man I met at the hotel _____ be Mr. Tomborello.
a. be able to
b. will
c. have to
d. must
2. If you try hard, you will _____ succeed in your business.
a. be able to
b. can
c. may
d. must
3. I should have _____ the tickets before they were sold out.
a. buy
b. buys
c. to buy
d. bought

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. I _____ talk with Mr. Jones about the patent yesterday.
a. can
b. may
c. was able to
d. be able to
2. Failure to report an accident _____ result in a maximum fine of \$1,000 for each violation.
a. can
b. must have
c. be able to
d. have to
3. Those who have attended a safety seminar before _____ have to attend this workshop.
a. not
b. do not
c. to
d. is able to

Explanation - Practice

1. The man I met at the hotel must be Mr. Tomborello.

「そのホテルで私が会ったあの男性がトンボレロさんに違いない。」

解説 : **d. must** 「～に違いない」(助動詞) が答えです。 **the man** (3人称単数) が主語となっているので、 **the man** に付けられる物で自然な意味になる物を選びます。

a. be able to 「～できる」の意味になりますが、 **be** が原形なので前が助動詞や不定詞などである必要があります(レッスン 13 参照)。 **c. have to** は3人称単数の主語につけることはできません。 **b. will** は形としては入れることができますが「あの男の人はトンボレロさんになるでしょう。」という文は意味として不自然なので、こちらは答えにはなりません。

2. If you try hard, you will be able to succeed in your business.

「一生懸命努力すれば、あなたはあなたのビジネスにおいて成功することでしょう。」

解説 : **a. be able to** 「～できる」が答えです。 **will** 「～でしょう」(助動詞) に付けることができる選択肢は **be able to** だけです。

Topic6 で学習したように、 **b. can** 「～できる」(助動詞)、 **c. may** 「～かもしれない」(助動詞)、 **d. must** 「～しなくてはならない、～に違いない」(助動詞)などの助動詞は他の助動詞の後ろにつけることはできません。

3. I should have bought the tickets before they were sold out.

「私は切符が売り切れる前に買っておけば良かったです。」

解説 : **d. bought** が答えです。 **buy** 「買う」の過去分詞です。ここでは **should + have + 過去分詞** 「～しておけば良かった」という構成になっています。このレッスンで学習したように、"助動詞 + **have** + 過去分詞"では過去のことについて現在思っている推測や後悔を表現できます。

a. buy (動詞の原形)、 **b. buys** (3人称単数現在形) を **have** の後ろに付けることはできません。 **c. to buy** (不定詞の **to** + 動詞の原形) を付けると **have to buy** 「買わなくてはならない」というつながりができるものの **should have to buy** とはしません。

Explanation - Homework

1. I was able to talk with Mr. Jones about the patent yesterday.

「昨日、私はジョーンズさんとその特許について話すことができました。」

解説 : **c. was able to** が答えです。時制が **yesterday** 「昨日」であること、主語が **I** であること、空欄の後ろの動詞が原形であることを考慮して、解答します。

全ての選択肢は後ろに動詞の原形をつなげることができます。しかし **d. be able to** は **be** の原形で始まっているため **I** につなげることができません。 **a. can** と **b. may** については前後のつながりは大丈夫ですが、時制が **yesterday** 「昨日」のことですから、整合性がありません。

2. Failure to report an accident can result in a maximum fine of \$1,000 for each violation.

「事故の報告を怠ると、1回につき最高1,000ドルの罰金となることがあります。」

解説：a. **can** が答えです。ここでは **can** は「～になりえる」という意味になっています。この文の主語は **failure** 「失敗、不履行」(名詞)で、3人称単数です。そこで、後ろにつく動詞として、三人称単数の主語につなげられる選択肢を選びます。

b. must have は前からのつながりという点では問題ありませんが、後ろに動詞の過去分詞が必要です。原形をつけることはできません。**c. be able to** と **d. have to** については後ろの動詞とはつながりますが、三人称単数の主語につなげることができません。

3. Those who have attended a safety seminar before do not have to attend this workshop.

「以前、安全セミナーに出席したことがある人はこのワークショップに出席する必要はありません。」

解説：b. **do not** が答えです。**do not have to** ～で「～する必要がない」という意味になります。**those** が主語なので3人称複数形の主語と、後ろに **have to** ～「～しなくてはならない」(助動詞)をつなげられるものを選びます。

a. **not** だけでは否定文を作ることができません。**do** も必要です。**d. is able to** は複数形の主語につなげられません。また、**c. to** では述語動詞がなくなってしまうのでダメです。